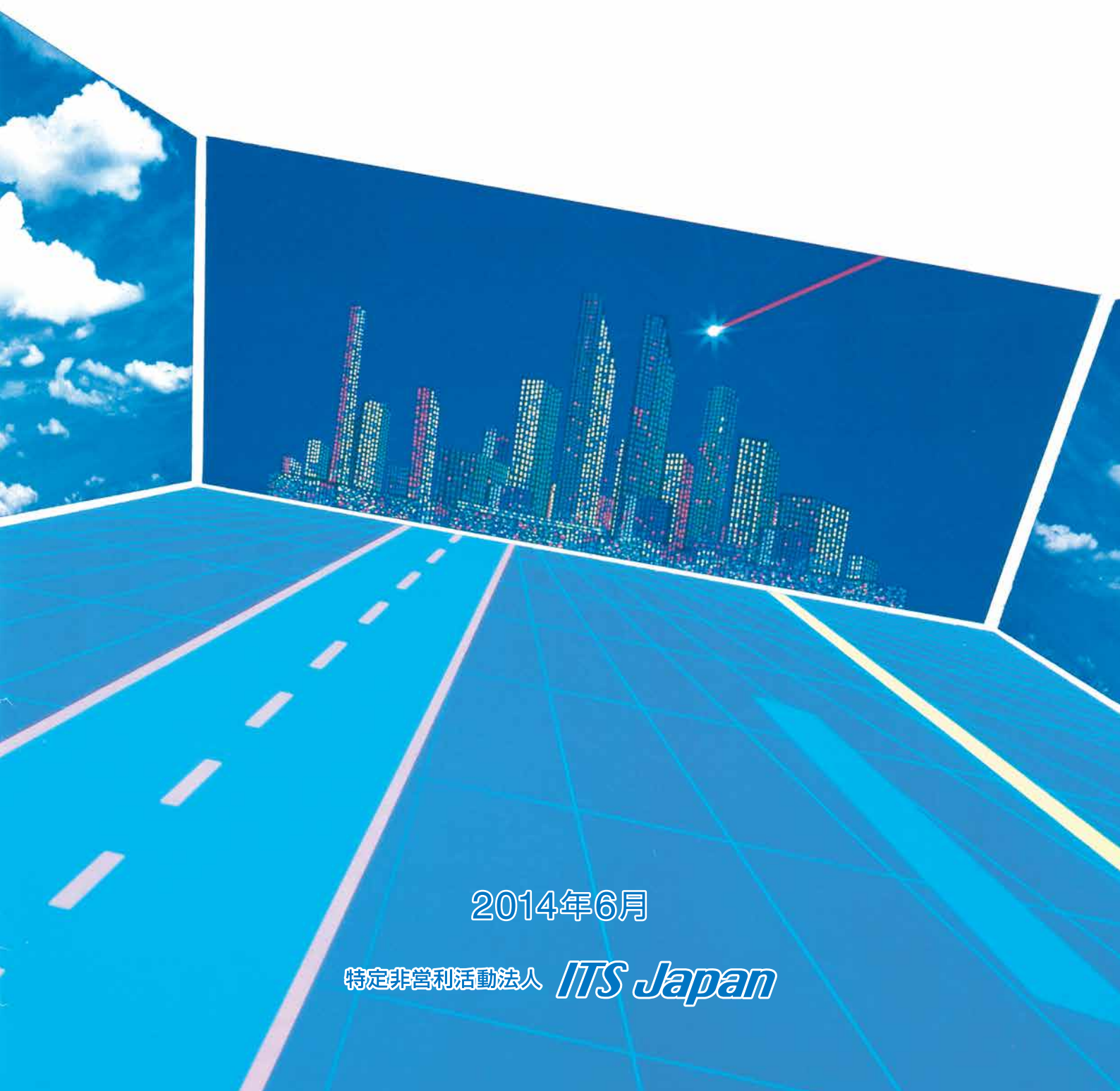


ITS Japan 20年のあゆみ



2014年6月

特定非営利活動法人 *ITS Japan*

特定非営利活動法人 ITS Japan 設立20周年に当たって

特定非営利活動法人 ITS Japan 会長

渡邊 浩之



特定非営利活動法人 ITS Japanは、2014年1月に設立20周年を迎えました。1994年1月に道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会(VERTIS※)として発足以来、2001年6月にITS Japanに名称変更し、2005年6月に特定非営利活動法人格を取得して、現在に至っております。

この間、ITS分野の研究開発・実用化の推進役、欧米アジアの国/地域との情報交換、世界会議やアジア・パシフィックフォーラムの開催など、多くの活動によりITSの発展に努力してまいりました。ここまで活動を積み上げられてこれられましたのは、創生時期の諸先輩のご尽力の結果であり、官界・産業界・学術関係者の多大なご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

振り返ってみれば、設立の当初、自動車交通は、交通の主役として欠くことのできない役割を果たす一方、交通事故、渋滞、環境汚染、化石燃料の大量消費などの問題が地球規模で深刻化しており、緊急かつ重大な課題に対し抜本的な対策を迫られておりました。これらの解決策としてITと通信を活用し、道路交通を“安全性、円滑性、快適性及び環境”の面で飛躍的に進歩させるシステムとしてITSが登場いたしました。

1996年に始まるITS関係5省庁との連携、官民連携、世界連携、および20年のこれらの積み重ねが、ITSの研究開発・社会実装を実現するソリッドなプラットフォームを作り上げました。中でもITSの普及・促進にITS世界会議が果たしてきた役割は大きいと考えます。2013年の第20回ITS世界会議東京では、1995年(横浜)、2004年(愛知・名古屋)の2回の世界会議の経験を活かし、これまでのITSの歴史が積み上がった世界会議として多大な成果を上げることができ、今後のITSの方向性を示しました。

他方、20年間の社会の変化に目を向けると、交通事故、交通渋滞、エネルギー・地球環境問題、および高齢化の進行、自然災害、経済成長の鈍化、新興国の急速な成長など、依然地球規模で様々な問題を抱えております。これらの問題は原因が複合化しており、ITSの総合的な視点から先進的な技術を駆使し、統合した解決が期待されているところであります。また、経済成長が著しいアジア太平洋地域の交通事故と環境問題などの諸問題解決に、現場主義を基本とし生活者目線のITS社会システムの貢献は大きいものがあります。

2013年のITS世界会議東京で示された、自動運転、ビッグデータの取組は、ITSの進むべき方向性として世界共通認識となりました。今後、「交通事故死ゼロの都市」、「エネルギーの安定供給と活用のムリ・ムラ・ムダをなくす社会システム」、「人々の活力とゆとりを両立させる世界」の実現に向け、ITS Japanは、次世代ITSの研究開発と実装に邁進する覚悟であります。そして、技術・インフラ・ヒトの三位一体のこの活動を通して、新しい産業の発展と世界連携の積み重ねを次の世代につないで行きたいと思っております。

今後ともITS Japanの活動内容にご理解いただき、変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

※ Vehicle, Road and Traffic Intelligence Society

平成26年6月

ITSの20年のあゆみと将来への期待

聴き手：石 太郎（早稲田大学環境総合研究センター 参事・招聘研究員）



ITS Japan 名誉会長
豊田 章一郎

●今年ITS Japanは、20周年を迎えることができました。本日はこれまでのITSの20年のあゆみと将来への期待を伺います。

1994年1月21日VERTIS設立、その年11月に第1回パリ世界会議、翌年1995年横浜で第2回ITS世界会議開催と、一連のITS始まりについての印象をお聞かせください。

もう20年経過したと思うと感慨深い。VERTIS設立に関して、当時の警察庁、通商産業省、運輸省、郵政省、建設省のITS関係5省庁および、井口教授、越教授、高羽教授、川嶋教授をはじめ関係者の方々に大変お世話になった。

パリでの世界会議のことも良く覚えている。主催国のフランスをはじめ各国の方々の挨拶があり、日本からは松浦駐仏日本大使に挨拶をしていただいた。ルノーのシュバイツァー社長やプジョーのカルベ社長の講演もあった。第2回ITS横浜会議の成功に向けて頑張らなければならないと思った。

パリでは複雑な会議名(First World Congress on ATT&IVHS: Application of Transport Telematics & Intelligent Vehicle Highway Systems)を使っていたが、越教授の提案で横浜会議から「ITS」に統一していただき欧米でも使われるようになった。とても良い名前を付けていただいたと思っている。共通の目標に向かって世界が連携して進めることを象徴する言葉である。パリ会議の方式が定着し、3年毎のサイクルで欧・米・アジア太平洋で世界会議が行われてきた。

その後、2004年の愛知県名古屋市での第11回ITS世界会議、2005年の愛・地球博へとつながった。

●自動車技術とITSによる渋滞や事故などの問題解決への貢献についてお聞かせください。

ITSの進展は、ETCやカーナビの普及と交通事故の解決への努力である。日本では全国にETCが広がり、渋滞解消にも役立っている。カーナビのおかげで不慣れな道でも安心して運転できる。これらはITSの成果だと思う。小泉内閣の時に、交通事故死者数を半減しようという方針が出た。当時10,000人以上の交通事故死者があったが、すでに半減は達成している。そして、事故死者数を更に減らしていただくだけではなく、事故を減らし怪我をする人をもっと減らさなくてはならないと思う。事故ゼロが私の夢だ。

中国北京でITSの会議を開いたときに、大都市の市長が集まり渋滞問題を強調していたことが印象深い。



早稲田大学環境総合研究センター 参事・招聘研究員
石 太郎

中国では交通事故も大きな問題だが、渋滞に対する関心が非常に高かった。ITSは渋滞解決にも有望である。

最近では自動車が増えるのは、中国やインドネシアなど東南アジアだ。しかしこれらのところは渋滞で困っている。渋滞が減るためには道路が良くなってはならない。道路と自動車の関係者がもっと連携を密にして全国によい道路を張り巡らせて欲しい。そうすれば交通事故も減るだろうと思っている。

道路上には自動車以外に、自転車、オートバイ、歩行者など様々な移動体がある。これらがうまくコラボレーションしていくことが必要だ。ベトナムでは、歩行者、自転車、オートバイ、自動車が入り乱れている状態だ。ITSが入って行く必要があるのではないか。ITSは、ETCや人・車・道路が協調した安全サポートサービスなどの実用化・普及が重要だ。

●ITSが社会に貢献するという観点から、最近のITSの発展をどのように感じておられますか。

私は自動車屋として、自動車を通じてより豊かな社会づくりに貢献したいと考えている。



東京のような大都市では地下鉄やバスなど他の乗り物があるが、地方に行ったら自動車がなくては生活できない。しかし、今の自動車には制約も多い。昔、江戸城には籠で中まで入れたが、自動車は玄関で車を降りて入らねばならない不便さがある。最近では新しい小さい車も話題になっている。新しいITSの技術とこれらがうまくコラボレーションしていくことが必要だ。自動車はもっと頑張らなくてはいけない。

また、Fun-to-Driveと言っているが快適なドライブができていない。止まってばかりで楽しくない。それには“速く行く”ということが大切だ。最近では自動車のスピードが落ちてしまっている。以前は家から会社まで30分程度で行けた。今は渋滞や信号機が増えて2倍くらい時間がかかってしまう。自動車が多いということも問題ではあるが、まだ改善する余地がたくさんある。

日本はまだまだ高速道路にも発展の余地がある。自動車と道路とITSの研究が進んでもっと高速で走ることができるようになって欲しい。そして日本中に高速道路を張り巡らせ快適なドライブが出来るようになって欲しい。

●最近では情報技術の発展が著しく、自動車に影響を与えております。将来の技術についてのお考えをお聞かせください。

カーナビはもっと進歩するのではないかな。カーナビでどこかに行くとき、渋滞個所の迂回などを案内してくれるが、本当に速く行けるのかどうかかわからないと思う時がある。そういったことを正確に判断できるようにビッグデータを応用するのもこれからの分野でないか。

情報技術に比べて自動車はあまり進歩していないと思っている。自動車屋は頑張らなくてはいけない。エレクトロニクスの進歩はすごい。簡単にいうとエレクトロニクスは1馬力のエンジンが1万馬力になっても同じ大きさで出来てしまう。それがエレクトロニクスの世界だ。どうも、我々はメカニカル思考だから、1馬力が1万馬力になると大きくなると思ってしまう。技術革新のスピードがずいぶん違うので、それについて行くためには、自動車も相当エレクトロニクスの関係の勉強をしないと遅れてしまう。

自動運転をうまく実用化にもって行って欲しい。運転を代わって欲しい時がある。建設中に新東名の自動運転の実験に乗せてもらった。高速道路などで自動運転が可能になれば事故もかなり回避できるはずだ。

道路がないと自動車は走れないが、飛びぬけた発想と新しい技術で、未来の移動の夢を描いてみることも必要ではないか。アメリカなどはいろいろなアイデアを出している。日本の将来の自動車はどのようなものか関心を持っている。無限にある夢を実現して欲しい。

●最後に将来のITSに対してのメッセージをお願いいたします。

2013年のITS世界会議は、いままでのITSの歴史が積み上がった素晴らしい世界会議だった。ITSは、若い人が育ち民間の力の結集を続けて行くことが大切だ。いつも言うように“世のため、人のため”のITSだ。

●これからも関係者一丸となって努力してまいりますので、ご支援よろしくをお願いいたします。本日は、貴重なお話をありがとうございました。

思い出

お詫びと賞賛の意を込めて

東京大学名誉教授 **井口 雅一** 氏
(VERTIS 理事長)



幻の ITS：1994 年、第 1 回 ITS 世界会議開催に合わせて ITS Japan の前身 VERTIS が設立された。よく知られているようにそれより 10 年も前から日本では世界に先駆けて、関係省庁によって各種の自動車交通情報システムの開発が行われていた。学生時代からの遊び仲間であった越教授（当時、土木）、高羽教授（当時、電気）、井口（機械）はそれぞれの専門に関わる開発プロジェクトに参加していた。1992 年頃、自動車交通情報システムは専門横断的な課題であり 3 人が関連する専門分野の研究者・技術者が交流できる場 ITS (Intelligent Traffic Society) を作ろうと言う相談がまとまった。言い出した筆者が作業を引き受け、関係者に参加を呼びかけ、参加のご返事を頂いた方々（約 70 名）の名簿を作成した。図はその表紙のタイトルの部分である。その直後に欧米から、日米欧が中心となって ITS 世界会議を開催しようとの呼びかけがあり、筆者は VERTIS の設立と世界会議への参加に忙殺されるようになった。VERTIS が図の ITS の代替と考えられなくもないと勝手な言い訳をしつつ、何の活動もしないまま今日に至ってしまった。金銭のご負担を外にはお掛けしていないこともあって、あれはどうしたとのご注意もこの間受けなかった。しかし数年前、今の ITS 名称が図の ITS から来たのかと問われ、まさかの誤解を生むことのないようここに顛末をお話してお詫びを申し上げます。もうひとつの ITS は幻であったとご容赦下さい。

Intelligent Traffic Society 第 1 次名簿

1993年3月31日

作成責任 井口雅一

プライバシー保護のため、取扱いにご留意ください。

Skyrocketing の発展；1994 年 VERTIS 創立とともに筆者は 4 年間理事長を勤めた。目先の第 1 回 ITS 世界会議（パリ）への参加、翌年第 2 回会議横浜での開催は関係者一丸の努力で成功裏に終えることができた。その一方で VERTIS 創立とともに、将来へのグランドデザインを策定した。大風呂敷を広げ 10 年間で累積 50 兆円の経済効果が期待できるとした。メディアに取り上げられ ITS への期待が高まった。ほぼ同じ 4 年間豊田章一郎会長は経団連会長でもあった。バブル経済破綻の後の景気浮揚に腐心され、ITS にも期待しておられた。この間 ITS は着実に発展してはいたが、残念ながらご期待に応えられるほどではなかったと思う。筆者は理事長退任後 ITS を離れ宇宙開発に専心せざるを得なくなった。その後の ITS はロケットが上昇する勢いで発展を遂げてきた。関係省庁、豊田会長はじめ関係者のご努力には頭が下がるばかりである。東日本大地震後、プローブデータを使って通行可能な道路を標示したり、路車間・車車間通信や準天頂衛星の活用、自動運転への発展など ITS 本来の姿である社会インフラへの展開が目に見える。車車間通信によって自動車だけで、災害に弱い地上施設を使わない独立の通信網を持つ社会的意義は大きい。筆者は相変わらず ITS の一翼を担う ASV (Advanced Safety Vehicle) プログラムに関与している。ITS の発展に貢献できることを幸せに感じている。

安全、円滑で楽しい道路交通を目指そう

東京大学名誉教授、東京工科大学名誉教授 **高羽 禎雄** 氏
(VERTIS 副理事長)



ITS Japan 設立20周年の達成おめでとうございます。10周年に続き、ここに記念誌が刊行されることをうれしく思います。

ITS Japan の設立に至る迄の関連する活動に私がかかわったことを思い出します。

わが国では1940年代の第二次世界大戦後50年代の戦後復興に続いて60年代以降の高度成長があり、経済を支える自動車台数の増加と道路ネットワークの拡大が行われました。

このような状況の中で道路交通事故死者数の増加や交通渋滞の拡大に対処して、1970年に東京では広域交通信号制御システムの運用が開始されました。米国で交通工学を学んだ故越正毅先生が信号制御手法を提案し、当時六本木に置かれた東大生研の研究室で運用評価の実測に協力され、情報処理工学部門の私 高羽もお手伝いをしてこの分野に加わりました。大阪で始まった高速道路が同年に東京でも導入され、首都高速道路の交通情報提供システムの開発にも参加しました。

同時期1973年には当時の通商産業省による自動車総合管制システムCACSの開発が始まり、私も参加すると共にカーナビを自分の車に搭載する実験にも加わりました。

CACSは米国で開発されたERGS（電子経路誘導システム）に学んで、路面に埋設されループアンテナと車載アンテナの結合により車載装置からの目的地情報に対応した経路情報を路上装置から受け取り進路を指示するシステムでした。実際の道路で車を運転しながら新しい装置を使用する実験は自分にとって貴重な体験であり、システムや機器の開発の面でも有効なデータを得ることができると共に、新しいアイデアを生み出す手がかりともなりました。

1980年代には当時の建設省がRACS（路車間情報システム）、警察庁がAMTICS（新自動車交通情報システム）などのシステムの研究開発を進めました。両システムは電波・光ビーコンを用いた路車間通信を利用して高度化と実用化を計ったものでありましたが、当時の郵政省の開発したFM多重放送と組合せたVICS（道路交通情報通信システム）が1995年に実現しました。VICSは7年間で日本全国への展開が進み、10年間で1500万台の車両への普及を達成しました。

VICSを運営する組織は財団法人道路交通情報通信システムセンターとして1995年7月に設立され、現在も成果を挙げています。

このような活動の進展と国際交流の活発化の中で世界会議を開催しようとする動きが起り、1994年にフランスのパリでの開催が予定された会議をその第1回とすることとなりました。1995年には日本の横浜、1996年にはアメリカとすることが決った段階で会議の名称をITS (Intelligent Transport (日欧) /Transportation (米国) System) とすることが決められました。

私は1996年に東京大学を定年後東京工科大学に勤務し、コンピュータサイエンス学部の新設に際してシステム系専門科目のひとつとして「ITS」の授業を行いました。ITSの基幹技術・応用技術・実用化と普及・将来の夢という分類で学生にITSに関する知識を提供し、学生各自が選んだ課題で作成したレポートに対する質疑を筆記試験の形で行ないました。2008年の最終回には約150名の学生が参加しました。

日本がITSの先進国であることを世の中の人々に広く知って貰い、若い人々の活躍の場を広げることを期待しています。

次の20年に向けて

慶應義塾大学コ・モビリティ社会研究センター 名誉教授 川嶋 弘尚 氏
(VERTIS 副理事長)



VERTIS発足時は、井口、越、高羽の諸先生方が、当時の関係5省庁と折衝されておられたので、私自身は詳細な経緯は知りませんでした。ISO/TC204が1993年春に発足し、その主だった米国のメンバー、例えば当時ナブテックにおられたシールズ氏、GMのシュプライツア氏らが来日し、VERTIS設立を関係機関に強く働きかけていました。

このミッションのメンバーの一人に日系アメリカ人のドイ氏がおられ、日本語が全然話せないためか、私に日本で一番良い海苔を買うのはどうしたらよいかと聞かれたことをよく憶えています。ドイ氏がどこの所属だったかも覚えていないのに、このような些細なことは覚えているようです。私が彼らとお会いした時はすでに設立の方向が決まっていたようで、雑談で終わったのだと思います。それにしても、親戚から日本で良い海苔を買ってきてくれと頼まれたために、体の大きいドイ氏が右往左往している様子はとてもユーモラスでした。今から考えると日本とアメリカの間の距離を感じさせるエピソードでもあります。

ITS世界会議が発足してから、第2回以降参加していますが、私なりに何らかの貢献が出来ていればと思っています。私にとって何より貴重なのは人とのつながりです。初めの頃のITS世界会議では、ITの道路交通への応用に関するOECD調査研究プロジェクトのメンバーが多くおられました。数年前に亡くなられたオランダのクラインハルト氏、BAStのボルテ氏、カタロニア工科大学のバルセロ教授らとお会いできるのが楽しみでした。その後ISO/TC204のメンバーや、セッションの運営で知り合うことになった方々と色々な形の情報交換の場として活用しております。

その上、ITSの変化をすばやく感じとる場として世界会議の役割は大きいと思っています。例えばエキシビション参加企業の種類、業種、特別セッションの構成、プレゼンテーションをされる方々のバックグラウンドを比べると大きな変化をみてとることが出来ます。私が大きな変化として覚えているのは2012年のウィーン大会で、エリクソン、ノキア等の携帯電話業界幹部が熱っぽくITSの重要性と彼らの貢献について語っていました。ところが、2013年の東京大会ではIBM、シスコ、オラクル等のインテグレーターの方々が、スペシャルセッションだけでなく、関係セッションにも参加していたことが印象に残っています。単純化すればモバイル通信の高いレイヤーに従事する産業が続々参入していることになります。世界会議発足当時の展示やセッションの構成とは隔世の感があります。

しかしながら、実は一番参加を求められているのは最上位レイヤーに属する道路事業者、すなわち道路交通管理・運営に関する業界の方々ではないでしょうか？日本は他の国々に比べれば、この業界の貢献は大きい方だと思いますが、アメリカにしても欧州にしても現場の方々の意見はあまり聞かれません。DOTやECの関係部署の方々は活躍しているものの、現場での日常業務の改善とは直結していないようです。

世界道路会議 (PIARC) や国連ECEの道路交通関連 WP において、途上国におけるITS導入キャンペーンを積極的に行っていますが、まだ大きな動きとはなっていないようですし、該当する国々での反応は高いとは言えないようです。しかしながら、複数の国際機関で途上国におけるITSの導入、さらには運転支援やAutomated Drivingの導入により、これらの国々での交通事故削減、環境負荷低減のための施策が議論されていますので、いずれ大きな動きになると思われます。従ってITS世界会議、そしてITS Japanの次の役割を申し上げるとすれば、これらの活動のシナジー効果を生み出すような、有能な触媒になることではないかと思います。次の20年が楽しみではないでしょうか。

第1回ITS世界会議'94パリの総括報告

第2回ITS世界会議'95横浜 組織委員会 委員長 越正毅氏
(VERTIS副理事長)



1 会議の経緯

インテリジェント道路交通世界会議を毎年欧、米、アジアの3極持ち回りで開催しようという提案が、1993年春のIVHS Americaの年次総会において初めてなされ、これに応じてERTICO (European Road Transport Telematics Implementation Coordination Organization) が第1回世界会議を94年11月にパリで開催することを決めた。

ヨーロッパではECのDRIVE IIプロジェクトが94年に終了し、その成果発表、DRIVE IIIおよび実用化に向けての飛躍の時期でもあるということから94年末の第1回開催を決意したものと推定される。

ちなみに、今後の予定としては第2回は95年11月9日～11日に横浜で、第3回は96年10月14日～18日米国オーランド市で、第4回は97年ベルリンまで決定している。第5回は98年に韓国または日本、第7回は2000年にオーストラリアが候補として挙がっている。

2 会議の名称

当初IVHS Americaが提唱したのはIVHS (Intelligent Vehicle Highway Systems) World Congressであったが、IVHSはアメリカのブランド名とみなされ、ERTICOはヨーロッパブランド名であるATT (Application of Transport Telematics) を加えて、First World Congress on ATT&IVHSと命名してすべての印刷物にもそのように表わした。

これに対して、94年春頃、日本VERTIS側から、横浜の第2回の際には、さらに日本のブランド名であるVERTIS (Vehicle, Road and Traffic Intelligence Systems) を加えVERTIS / ATT / IVHS World Congressとするのは繁雑であるから、もっと簡潔で中立的な、たとえばITS (Intelligent Transport Systems) World Congressという名称にしたらどうか、という提案をし、欧米の賛成を得た。したがって、第2回以降はITSで統一されることになる。

なお、IVHS AMERICA自身も、94年9月にITS Americaに改名した。

3 第1回パリ会議の概要

会議は3つの部分から成っている。

第1は開会および閉会のPlenary Sessions (全体会議) であり、開会は初日の午前、閉会は第3日目の午後、各半日である。

第2は初日の午後、第2日全日および第3日の午前の四半日にわたったExecutive Sessions (役員級会議) である。

第3は上の第2と同じ四半日にわたったTechnical Sessions (技術会議) である。Opening Plenary には、当初の予定ではバラデュール仏首相、ゴア米副大統領の出席、挨拶が予定されていたが、いずれも政治日程上の都合で出席できず、Bosson 仏運輸大臣、Harriman 駐仏米大使がそれぞれ両国を代表して基調講演を行った。日本からは松浦駐仏大使が邦の代表として出席し、講演をして頂いた。

政府からはこの他に独、英の運輸大臣、米の運輸次官、ECのコミッショナーの出席があり日本からも関係省庁の高官に出席を頂いた。民間からは、日本から豊田章一郎 VERTIS 会長、中原恒雄 VERTIS 副会長が出席し、欧米からはベンツ、ルノー、プジョーの自動車メーカーの会長、社長をはじめ、通信、インフラその他広い分野の先端大企業のトップクラスが一堂に会した。

Technical Sessions には483の論文が発表され大盛況であった。これはDRIVE IIの成果発表と合併したために論文数が多かったのも一因と見られる。

全参加者は会議出席が約2,200名であり、これに展示関連を加えると3千名に近い参加者があったといわれる。

第1回パリ会議はこのような盛大であり、第2回横浜会議との違いは大きくならざるを得ない。パリ会議の全経費はほぼ3億円にのぼるとのことである。参加者、論文集ともにパリの規模に達するには、今後の奮起と会員諸氏の御支援によるものである。

20th Anniversary Message for ITS Japan

◆ITS Americaよりのメッセージ◆

Dear Friends at ITS Japan,

ITS America extends congratulations to ITS Japan on the occasion of its 20th anniversary as an institution promoting research and deployment of intelligent transportation systems and services.

Our two organizations have been close collaborators since the early days of ITS – as IVHS America and VERTIS. From those first foundations, our groups have grown together, seeking ways to improve transport for our respective countries and regions through the application of modern communications and computer technology to surface transportation.

We have also enjoyed a fruitful partnership, too, through the organization and operation of ITS World Congresses. These platforms for global exchange of research, development and implementation ideas and results are unparalleled in many industries. It has been ITS America's good fortune to be a partner with ITS Japan, and later ITS-Asia Pacific, in this important endeavor.

In addition to the good work our respective organizations have done for our constituents, the members of ITS America have realized great value and satisfaction in the personal friendships we have made among ITS Japan members and staff. This is an all too rare outcome, enabled by the close institutional relationship that exists between our groups.

It is with great pride that ITS America extends Happy Birthday wishes to our very good friends at ITS Japan.



Scott Belcher
President and CEO, ITS America

◆ERTICOよりのメッセージ◆

Dear Friends of ITS Japan

In the name of the ERTICO Partnership and the ERTICO Team, I would like to congratulate you on your 20th Anniversary. ITS Japan can be very proud of its achievements in the context of the important advancements in the development and deployment of ITS in Japan, but very importantly also beyond. ERTICO sees it as a privilege to cooperate with ITS Asia-Pacific and ITS America on the preparation and execution of ITS World Congresses which provide an invaluable opportunity of the global ITS stakeholder community to meet, to exchange, to learn and to cooperate. ITS Japan is the initiator and leader of this cooperation in Asia-Pacific and we all still remember and cherish the most excellent and recent World Congress in Tokyo 2013.

We are committed to further strengthen this cooperation to achieve our common goals in the context of the deployment of ITS. International cooperation and harmonisation is key to the success of ITS by extending markets and customer acceptance. We very much share the aspiration of ITS Japan "to facilitate the creation of road transportation systems that are safe, comfortable, and kind to the environment, thereby providing a base for solid economic growth and contributing to a more affluent society." In addition we admire the dedication, the competence and the style with which ITS Japan is fulfilling this aspiration in Japan, in Asia-Pacific and in the world.

Warm regards and friendship



Hermann Meyer
CEO, ERTICO - ITS Europe

特定非営利活動法人 ITS Japan 組織の変遷

特定非営利活動法人 ITS Japan 専務理事

天野 肇

ITS Japanの前身であるVERTISは、1994年1月21日に発足した。米国ではITS Americaの前身であるIVHS AMERICA (Intelligent Vehicle and Highway Society of America) が1990年に、欧州ではERTICO (European Road Transport Telematics Implementation Coordination Organization) が1991年に発足しており、現在の米州、欧州、アジア太平洋からなる世界3極体制の中核組織がそろったことになる。ITSは、産業分野が多岐にわたり、公共事業や制度設計なども深く関わることから、関係者が一堂に会する国際会議を毎年持ち回りで開催して連携を深めてゆくことが3極で合意された。これが、ITS世界会議 (World Congress on Intelligent Transport Systems) である。第1回が1994年にパリで開催され、第2回が横浜で開催された。VERTISは、第2回ITS世界会議横浜の事務局として第一歩を踏み出した。

1996年7月にはITS関係5省庁 (警察庁、通商産業省、運輸省、郵政省、建設省) により「高度道路交通システム (ITS) 推進に関する全体構想」が策定され実用化に向けた活動が本格化した。VERTISでは12の委員会を設置して主要会員の理事の方にそれぞれご担当いただき、産官学の連携と国際連携の要となるべく活動を推進した。1996年9月に、第1回アジア太平洋地域ITSセミナーを東京で開催し、アジア太平洋地域を舞台とした活動を開始した。世界各国でITS組織が発足し、国際的な動きに合わせてVERTISも2001年にはITS Japanに組織名を変更した。

VICSやETCなど全体構想に基づくシステムの開発・実証実験が進み、本格普及段階に入った2004年10月には、日本で2回目となるITS世界会議愛知・名古屋を開催した。いよいよ新たな段階に入るという認識から、ITS Japanに「基本戦略委員会」を設置してITSの取り組むべき課題を整理して方向性を提示するとともに、「ITS Japanのあり方検討特別委員会」を設置して法人化を目指した組織体制について提言をまとめた。

翌2005年6月には、特定非営利活動法人として新たなスタートを切った。活動の基盤を総務、企画検討、国際の3つの常設委員会と企画検討委員会の下に設置するプロジェクト型委員会に再編し、具体的なプロジェクトを積極的に提案し、その主体として活動を展開する体制に改めた。また、産官学の関連組織との連携強化のために渉外機能を強化することや、国際活動においてより強力なリーダーシップを発揮することも織り込まれた。

新体制の下で、2006年に策定された政府IT戦略本部のIT新改革戦略の「世界一安全な道路交通社会」実現のための協調型安全運転支援システム実用化に向け、「J-Safety委員会 (後のインフラ協調システム委員会)」を設置して大規模実証実験の民間側事務局を担った。また、2008年から始まった総合科学技術会議の社会還元加速プロジェクトでは、「新交通物流特別委員会」を設置して、国の動きとモデル都市、民間の活動が連携するための場を提供した。

2013年には、日本で3回目となるITS世界会議東京2013の開催を機に、技術革新や社会環境の変化に対応した、2030年を想定したITSの将来ビジョンを「ITSによる未来創造の提言」としてまとめ内外に発信した。同時期に新たに策定された政府の成長戦略、IT戦略、科学技術戦略とも軌を一にするものであり、その実現に向け邁進したい。

年表

	ITS Japanの活動	ITS 国際会議	国内外 ITS の活動	出来事
1993年 (平成5年) 以前	<ul style="list-style-type: none"> • VERTIS 設立発起人会開催 (1993年11月) 		[1973年] • CACS (自動車総合管制システム～1979) [1990年] • IVHS America 設立 [1991年] • ERTICO 設立 [1993年] • ISO/TC204 の国内標準化体制として、国内対策委員会を設置 • IVHS America、ERTICO から日本に世界会議への参加依頼 • 道路・交通・車両情報化関係5省庁連絡会議設立 • VICS 公開デモ実験	
1994年 (平成6年)	<ul style="list-style-type: none"> • VERTIS 設立総会開催(1月) • 世界会議横浜・日本組織委員会設置 	<ul style="list-style-type: none"> • 第1回 ITS 世界会議(パリ) 		<ul style="list-style-type: none"> • リレハンメル 冬季オリンピック
1995年 (平成7年)	<ul style="list-style-type: none"> • 第2回 ITS 世界会議横浜1995開催 • 事務所を移転(虎ノ門から九段南に) 	<ul style="list-style-type: none"> • 第2回 ITS 世界会議(横浜)   	<ul style="list-style-type: none"> • (財) 道路交通情報通信システムセンター(VICS センター) 設立 • 高度情報通信社会推進に向けた基本方針発表 • 道路・交通・車両分野における情報化実施指針発表(ITS 関係5省庁) 	<ul style="list-style-type: none"> • 阪神・淡路大震災
1996年 (平成8年)	<ul style="list-style-type: none"> • アジア太平洋地域 ITS セミナー(現 ITS AP フォーラム) の開催 	<ul style="list-style-type: none"> • 第3回 ITS 世界会議(オランダ) • 第1回 ITS AP セミナー(東京)  	<ul style="list-style-type: none"> • VICS サービス開始 • 高度道路交通システム(ITS) 推進に関する全体構想(ITS 関係5省庁)  <ul style="list-style-type: none"> • AHS 自動運転デモ実施(長野・小諸) AHS 研究組合設立 	<ul style="list-style-type: none"> • アトランタ オリンピック

	ITS Japanの活動	ITS 国際会議	国内外ITSの活動	出来事
1997年 (平成9年)	<ul style="list-style-type: none"> ITSモデル地区実験構想(～1999) 地域ITSフォーラムを日本各地で開催開始 ITS標準化活動受託 欧、米、アジア・パシフィックの3極MOU締結 組織運営を担当理事による常設委員会制に移行 	<ul style="list-style-type: none"> 第4回ITS世界会議(ベルリン) 第2回ITS APセミナー(ケアンズ) 	<ul style="list-style-type: none"> ETC試験運用開始(小田原) 	<ul style="list-style-type: none"> COP3京都会議 消費税5%へ
1998年 (平成10年)	<ul style="list-style-type: none"> ITSシステムアーキテクチャ策定検討 事務所を移転(九段南から西新橋に) 	<ul style="list-style-type: none"> 第5回ITS世界会議(ソウル) 		<ul style="list-style-type: none"> 長野冬季オリンピック
1999年 (平成11年)	<ul style="list-style-type: none"> ITS APのMOU締結 	<ul style="list-style-type: none"> 第6回ITS世界会議(トロント) 第3回ITS APセミナー(クアラルンプール) 	<ul style="list-style-type: none"> (財)道路システム高度化機構(ORSE)設立 ITSに係るシステムアーキテクチャ策定 	
2000年 (平成12年)	<ul style="list-style-type: none"> 第20回ITS世界会議の名古屋開催決定 VERTIS地域ITS推進委員会設置 	<ul style="list-style-type: none"> 第7回ITS世界会議(トリノ) 第4回ITS APセミナー(北京) 		<ul style="list-style-type: none"> シドニーオリンピック
2001年 (平成13年)	<ul style="list-style-type: none"> VERTISからITS Japanに名称変更(6月) 	<ul style="list-style-type: none"> 第8回ITS世界会議(シドニー) 	<ul style="list-style-type: none"> ETC本格運用開始 高度情報通信ネットワーク社会形成基本法(IT基本法)制定と推進戦略本部(IT戦略本部)設置 e-Japan戦略発表 	<ul style="list-style-type: none"> 中央省庁再編 米国同時多発テロ(9月11日)
2002年 (平成14年)	<ul style="list-style-type: none"> ITS基本戦略委員会設置 第1回ITSシンポジウムを開催 ITS APのMOU改定 	<ul style="list-style-type: none"> 第9回ITS世界会議(シカゴ) 第5回ITS APフォーラム(ソウル、フォーラムに改称) 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットITS協議会設立 	<ul style="list-style-type: none"> ソルトレイクシティ冬季オリンピック
2003年 (平成15年)	<ul style="list-style-type: none"> ITS Japanのあり方検討特別委員会設置 NPO法人化に向けた設立準備委員会を設置(現ITS Japan組織を検討) IJIR(国際的学術論文誌)発刊 	<ul style="list-style-type: none"> 第10回ITS世界会議(マドリード) 第6回ITS APフォーラム(台北) 	<ul style="list-style-type: none"> VICSサービス全国展開完了 e-Japan戦略II発表 	<ul style="list-style-type: none"> 地上デジタル放送開始(東京・大阪・名古屋)

	ITS Japanの活動	ITS 国際会議	国内外 ITS の活動	出来事
2004年 (平成16年)	<ul style="list-style-type: none"> 第11回ITS世界会議愛知・名古屋 2004 開催 ITS Japanビジョン委員会設置：「ITS推進の指針」取りまとめ  <ul style="list-style-type: none"> ITS Japan設立10周年記念シンポジウム開催 中国VICS構築支援研究会設置（～2011） 次世代デジタル道路地図研究会設置 	<ul style="list-style-type: none"> 第11回ITS世界会議（愛知・名古屋）   	<ul style="list-style-type: none"> VICS 車載機累計出荷台数 1,000 万台突破 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県中越地震 アテネオリンピック
2005年 (平成17年)	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人 ITS Japan に移行(6月)  <p>(認定書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務所を移転(西新橋から芝公園に) J-Safety 委員会設置：IT 新改革戦略提案検討 環境 ITS プロジェクト推進（～2008） 	<ul style="list-style-type: none"> 第12回ITS世界会議（サンフランシスコ） 第7回ITS AP フォーラム（ニューデリー） 		<ul style="list-style-type: none"> 愛・地球博 第39回東京モーターショー(幕張)
2006年 (平成18年)	<ul style="list-style-type: none"> DSRC 等応用サービス普及促進委員会設置（～2010） ITS AP 覚書(MOU) 改定 第1回日本ITS推進フォーラム開催 	<ul style="list-style-type: none"> 第13回ITS世界会議（ロンドン） 第8回ITS AP フォーラム（香港） 	<ul style="list-style-type: none"> IT 戦略本部が「IT 新改革戦略」を発表 官民連携の「ITS 推進協議会」設置 	<ul style="list-style-type: none"> トリノ冬季オリンピック

	ITS Japanの活動	ITS国際会議	国内外ITSの活動	出来事
2007年 (平成19年)	<ul style="list-style-type: none"> ・新交通物流特別委員会設置：社会還元加速プロジェクトへの対応(～2012) ・次世代デジタル道路情報委員会設置 ・「ITS年次レポート」をITS Japanから発行開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・第14回ITS世界会議(北京) 		<ul style="list-style-type: none"> ・第40回東京モーターショー(幕張)
2008年 (平成20年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ITS長期ビジョン2030」策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・第15回ITS世界会議(ニューヨーク) ・第9回ITS APフォーラム(シンガポール) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合科学技術会議「社会還元加速プロジェクト」開始(～2012) ・エネルギーITS推進事業開始(～2012) 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーマンショック ・北京オリンピック
2009年 (平成21年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ITS-Safety2010大規模実証実験・公開デモ実施(ITS推進協議会主催、お台場、2月) ・「ITS長期ビジョン2030」の改定 ・「ITS総合戦略2015」の策定 ・ITS APのあり方検討会設置：ITS APのMOU改定検討 ・2013年の第20回ITS世界会議の東京開催決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・第16回ITS世界会議(ストックホルム) ・第10回ITS APフォーラム(バンコク) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ITS-Safety2010 大規模実証実験(ITS推進協議会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・民主党政権へ ・第41回東京モーターショー(幕張)
2010年 (平成22年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ITS世界会議東京2013日本組織委員会設置 ・「ITS総合戦略2015」に基づく、4つのテーマを検討(次世代協調システム、次世代モビリティネットワーク、災害時/平常時ハイブリッドシステム、国際展開戦略化) ・ITS APのMOUの大幅改定(理念、活動内容、財務等)  <p>(改定MOU)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第17回ITS世界会議(釜山) 		<ul style="list-style-type: none"> ・バンクーバー冬季オリンピック

	ITS Japanの活動	ITS 国際会議	国内外 ITS の活動	出来事
2011年 (平成23年)	<ul style="list-style-type: none"> 「自動車通行実績・通行止情報」を提供 (東日本大震災)  <p>地図: Google</p> <ul style="list-style-type: none"> 新中期計画(2011～2015) 策定 インフラ協調システム委員会設置 (J-Safety委員会が発展) 災害時/平常時ハイブリッド情報システム委員会設置 道路情報基盤活用検討会設置 東京モーターショー「SMART MOBILITY CITY 2011」に出展 	<ul style="list-style-type: none"> 第18回ITS世界会議 (オランダ) 第11回ITS AP フォーラム (高雄) 	<ul style="list-style-type: none"> ITS スポットサービス運用開始 DSSS 運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災 (3月11日) 第42回東京モーターショー(東京ビッグサイト)
2012年 (平成24年)	<ul style="list-style-type: none"> ITS 世界会議東京2013開催に向けた準備 新交通物流特別委員会(社会還元加速プロジェクト)のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 第19回ITS世界会議 (ウィーン) 第12回ITS AP フォーラム (クアラルンプール) 	<ul style="list-style-type: none"> 「社会還元加速プロジェクト」「エネルギー ITS 推進事業」まとめ 「ITS 世界会議東京2013を成功させる議員の会」設立 	<ul style="list-style-type: none"> 自民・公明政権へ ロンドンオリンピック 新東名高速道路開通(御殿場JCT～浜松いなさJCT間)
2013年 (平成25年)	<ul style="list-style-type: none"> 第20回ITS世界会議東京2013開催: 「自動運転」、「ビッグデータ」を今後の継続テーマに ITS GREEN SAFETY ショーケースの実施 「ITSによる未来創造の提言」の発信 ITS APによる「ITSガイドライン」の発信  <ul style="list-style-type: none"> CEATEC JAPAN・東京モーターショー・ITS 世界会議連携 	<ul style="list-style-type: none"> 第20回ITS世界会議(東京)   	<ul style="list-style-type: none"> 世界最先端IT国家創造宣言: 官民ITS構想・ロードマップ「自動走行システムと交通データ利活用」 科学技術イノベーション総合戦略: 戦略的イノベーション創造プログラム「自動走行(自動運転)システム」 	<ul style="list-style-type: none"> 第43回東京モーターショー(東京ビッグサイト)
2014年 (平成26年)		<ul style="list-style-type: none"> 第21回ITS世界会議 (デトロイト) 第13回ITS AP フォーラム (オークランド) 		<ul style="list-style-type: none"> ソチ冬季オリンピック 消費税8%へ

VERTIS 設立趣意書

道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会の設立と IVHS ワールド कांग्रेस等への対応についてのご参加のお願い（趣意書）

経済・社会活動の基盤である人、物の移動と輸送をめぐる現下の諸問題に関し、人と社会と環境との調和を目指して、21世紀の新しい発展分野である道路・交通・車両全般にわたるインテリジェント化を推進するためには、多くの関係学界、業種企業が関与、結集し、革新的なアイデアを生み出すとともに、総合的、社会的なシステムを開発し、構築していくことが必要であります。

このことに関し、欧米においてはIVHS (Intelligent Vehicle Highway System / ATT (Advanced Road Transport Telematics) 開発普及政策が統一的な組織により進められておりますが、我が国においては、本分野に関係する5省庁（警察庁、通産省、運輸省、郵政省、建設省）においても連絡をとり合い、これまで個別に研究開発や事業を行ってきた各組織が相互連携を深め、実用化を促進する時期にいたっております。また、日・米・欧でこの分野のワールド कांग्रेसを開催することが決まり、ISOでも新しい技術委員会が設けられました。

このような情勢の中で、関係5省庁の全面的な支援を受け、道路・交通・車両のインテリジェント化に関係する学界、産業界、各種団体等が『道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会 (VERTIS)』を組織し、我が国を代表して、IVHS AMERICA (Intelligent Vehicle Highway Society of America) やERTICO (European Road Telematics Implementation Coordination Organization) 等への対応等の事業活動やこの分野に係わる意見、情報の交換を一致協力して行うことは極めて有意義であると考え、ここに関係各位のご参加とご支援を戴きたく衷心よりお願いする次第であります。

なお、本「推進協議会」の活動は、関係省庁全体と連携をとりつつ進めることとしております。

1993年11月22日

発起人代表 豊田 章一郎

(VERTIS : Vehicle, Road and Traffic Intelligence Society、道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会)

＜VERTIS 設立総会 プレスリリースより抜粋、1994年1月＞

道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会の設立 — 必要性和背景 —

1. 自動車交通を取り巻く環境の変化

全世界で6億台を越え、しかも年率5%で増加する自動車を見ると、物流における重要さはもとより、人々の個人の足（パーソナルモビリティ）としての自動車に対する熱望がいかに大きいか汲み取れる。しかし、自動車交通がもたらす社会的な副作用、すなわち都市環境問題、地球環境問題、エネルギー問題、交通安全問題、交通渋滞問題などいずれも放置すれば、自動車交通によって支えられた現代社会の自滅を招くところにきている。

2. 道路・交通・車両のインテリジェント化の必要性

これらの諸問題に対処するため、官・学・産も関連組織がこぞって、自動車の低公害化、省エネ化の実現に努力しているが、対策のもう一つの大きな柱が自動車、インフラとしての道路およびその複合体としての交通の情報化、知能化、つまりインテリジェント化である。従って、道路・交通・車両のインテリジェント化に関する活動を活発化させることが是非とも必要である。

3. 内外のインテリジェント化研究開発の活発化

日本では各関連企業や研究機関がインテリジェント化のための研究開発を行い、官主導の幾つかの研究開発団体に参加して、その成果の実用化への努力を続けてきた。そして、関係5省庁（警察庁、通産省、運輸省、郵政省、建設省）で構成する『道路・交通・車両情報化関係5省庁連絡会議』が1993年7月16日に設立され、長期的展望に基づく連絡体制を整備した。

米国では、連邦政府主導の下に、全国統一の研究開発組織、IVHS AMERICA (Intelligent Vehicle and Highway Society of America) が設立され、研究開発と実用化への積極的な活動を進めている。

欧州では、プロメテウス計画やドライブ計画によって生まれた成果を実用化するために、産官学の連携組織、ERITICO (European Road Telematics Implementation Coordination Organization) が設立されている。

以上、この分野に関しては、全世界で開発競争の状態にあり、ISOにおいても新しい技術委員会を設け、国際標準の作成を急いでいる。

4. IVHS World Congress

4.1 IVHS World Congressの提起

日・米・欧の、道路・交通・車両のインテリジェント化研究開発の進展を踏まえて、相互の交流を深め、より効率の高い発展

を図るため、1993年春、米国ワシントン市での関係各国の会合で、IVHS AMERICAより、太平洋圏、アメリカ、ヨーロッパの3地域連合して、IVHS World Congressを毎年、3地域持回りで開催する提案があった。

欧州は早速その提案を受け入れて、1993年6月、ベルギーで欧米の促進者で会議を開き、第1回目を1994年11月にパリでERTICOが主催者となって開催することを決めた。

IVHS World Congressの組織は、太平洋圏、アメリカ、ヨーロッパ3地域の代表者からなる理事会で構成され、その合意の下に運営される。地域ごとには約15名の委員で構成される運営委員会（Streering Committee）が組織され、その地域で開催するIVHS World Congressを主催することになる。

4.2 日本への参加の要請と日本の対応

IVHS AMERICAとERTICOの代表者が1993年7月に日本を訪れ、IVHS World Congressに日本が参加するよう要請を受けた。

日本にはIVHS関連の研究開発組織を統合する機関がないため、IVHS研究開発を支援する5省庁、関連企業、大学などの研究者がそれぞれのグループで、IVHS World Congressへ参加することの是非を検討し、さらに相互の意見を交換した。その結果は、将来のキーテクノロジーとなりうるIVHS（車両と道路の情報化・知能化）技術開発は、国際的に協調を取りながら進めなければならない、日本はこの分野で世界的に寄与するために、むしろ積極的にIVHS World Congressの一翼を担うべきであるとの合意に達した。

日本運営委員（当面は日本が太平洋圏運営委員会を代行する）は、官民学の関係者の打合せで、大学関係者4名、5省庁からその関係者5名、民間企業から7名で構成することになった。

5. 関連学界、団体、企業による推進協議会の必要性

以上の経緯と考え方から、取り急ぎ関係者が運営委員を選出し、IVHS World Congressの活動を行なうことにしたが、その円滑な実行には人的にも財政的にもこれを支援する母体組織、例えば米国のIVHS AMERICAや欧州のERTICOのような統一組織が求められてきた。

そこで、わが国においても、既に関係5省庁で設立している連絡会議と連携し、本分野で整合性のとれた開発・普及を推進するため、IVHS関連の研究者・関係団体・民間企業からなる推進協議会を設立することとなった。

特定非営利活動法人 ITS Japan 設立趣旨書

「道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会（VERTIS）」は、ITS（Intelligent Transport Systems：最先端の情報通信技術などを用いて、人と道路と車両とを一体のシステムとして構築することにより、安全・環境・利便の面から交通社会を改善するシステム）分野の研究開発および実用化の推進と第2回ITS世界会議開催（横浜）を目的にITS関連5省庁（当時の警察庁、通商産業省、運輸省、郵政省、建設省）のご支援を頂き1994年1月に任意団体として設立され、2001年6月に「ITS Japan」に名称を変更しました。

これまで10年間は、ITS世界会議の日本およびアジア太平洋地域の事務局、日本のITSの普及啓発活動、会員への情報提供活動などを実施してきましたが、ITSに関係する業界から更なる事業の発展を望む声が高まり、2002年12月に「ITS基本戦略委員会」を設置し、ITS Japanの新たな役割を検討しました。

その結果、政策への提言機能、官民の連携および調整機能、国際戦略機能など7項目の機能を持つことが重要であると提言にまとめました。

翌2003年10月にそれらの提言を実現するためにITS Japanに必要なものについて、「ITS Japanあり方検討特別委員会」を設置し検討しました。

その結果、ITS Japanのミッションの明確化、ITSの短期・中期に実施すべき内容の明確化、政策へ提言する体制の充実、魅力あるITS世界会議の開催、収支構造の見直し、会員構成と会員数の拡大とそれら全体を円滑に進めるために、現在の任意団体としての良さ（柔軟性・中立性）を保ったままで、市民に開かれた組織形態をとり、情報公開を推進する法人格の取得が必要と提言されました。

これらの提言を踏まえ、ITS Japanに相応しい「特定非営利活動法人格」を取得して、移動・交通分野の安全・環境・利便を飛躍的に向上させることで、住みやすく生き活きた社会をめざして、

- ・わが国のITSの発展と地域への普及・実用化促進への支援
- ・ITSの国際会議の推進による国際交流の促進支援
- ・ホームページ・刊行物などによる一般市民への情報提供・啓発
- ・ITS標準化の推進の支援

などをおこなってまいります。

平成16年 12月 24日

— 特定非営利活動法人 ITS Japan —

■ 沿革

1994年1月 VERTIS(道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会)として設立
2001年6月 ITS Japanに名称変更(任意団体)
2005年6月 法人格取得 → 特定非営利活動法人 ITS Japan

■ ITS Japanの目的

広く一般市民を対象に我が国の移動・交通分野の幅広い関係機関などと連携し、ITS(Intelligent Transport Systems)の発展・普及・実用化の促進と、国際交流に関する事業を行い、産業の発展を通じて一般市民が住みやすい活き活きた社会の実現を目指すこと。

■ 主な事業と位置付け

事業：①ITSの政策提言/普及促進
②関係者連携/国民理解の促進
③ITS世界会議の開催
位置付け：①ITS推進における民間の代表的位置付け
②関係省庁に対して中立

■ 役員

名誉会長：豊田 章一郎(トヨタ自動車株式会社 名誉会長)
会長：渡邊 浩之(トヨタ自動車株式会社 顧問)
副会長：坂内 正夫(独立行政法人 情報通信研究機構 理事長)
藤江 一正(独立行政法人 情報処理推進機構 理事長)



名誉会長
豊田 章一郎



会長
渡邊 浩之

■ 理事会・団体

沖電気工業株式会社

住友電気工業株式会社

株式会社デンソー

株式会社東芝

トヨタ自動車株式会社

日産自動車株式会社

日本電気株式会社

パナソニック株式会社

株式会社日立製作所

富士通株式会社

本田技研工業株式会社

三菱電機株式会社

アイシン精機株式会社

いすゞ自動車株式会社

オムロンソーシアルソリューションズ株式会社

クラリオン株式会社

KDDI株式会社

スズキ株式会社

日本アイ・ビー・エム株式会社

日本電信電話株式会社

パイオニア株式会社

富士重工業株式会社

マツダ株式会社

三菱自動車工業株式会社

三菱重工業株式会社

矢崎総業株式会社

インターネット ITS 協議会

一般社団法人 電波産業会

一般財団法人 道路新産業開発機構

一般財団法人 道路交通情報通信システムセンター

一般財団法人 日本デジタル道路地図協会

一般社団法人 日本自動車工業会

一般社団法人 日本自動車部品工業会

一般社団法人 日本自動車連盟

一般財団法人 日本自動車研究所

一般社団法人 UTMS 協会

■ 会員数：240 (2014年6月11日現在)

正会員：169(企業：147 団体：22)

特別会員：16 賛助会員：52 名誉会員：2 顧問：1



特定非営利活動法人 ITS Japan

〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目6番8号 日本女子会館ビル 3階
Tel: 03-5777-1012 Fax: 03-3434-1755
URL: <http://www.its-jp.org>